

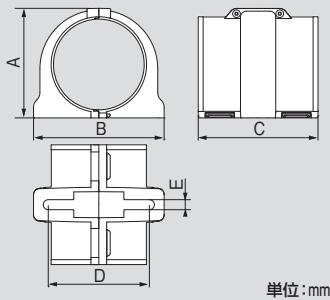
PDBK PDブラケット固定ジョイント 施工手順書

お願い ※下記が守られなかった場合、製品の想定する機能・性能が発揮されない可能性があります。

- 架台(三角ブラケット等)で配管荷重を受ける支持点を設けて施工してください。PDダクトやU金具が直接配管荷重を受けると変形する可能性があります。
- 配管を支持するU金具はワッシャを入れて施工してください。
- 固定ジョイント底面の上側にワッシャが乗るように固定してください。固定ジョイント底面の下側にワッシャが入ると、架台から固定ジョイントが浮いたり、ナット締結部の支持強度が低下します。
- 横並び配管の場合はU金具の施工ピッチを守って施工してください。U金具施工ピッチが短いと固定ジョイントの取り付けができなくなります。
- 曲げ配管の近傍に固定ジョイントを設置するように配管を行ってください。近傍に固定ジョイントを設置できない場合はコーナーパーツを継手固定金具で支持してください。曲げ配管から支持点が遠いとコーナーパーツの落ち込み、ダクト抜けの原因となります。
- 配管支持ピッチにあった長さのダクトを使用してください。ダクトが短いと固定ジョイントの差込シロが少なくなり、ダクトの抜けの原因となります。
- 壁面貫通箇所近傍では、屋内への雨水侵入防止のため、コーキング処理やパテ埋めなどを施し、防水処理を行ってください。その他の箇所については、必要に応じて防水処理を行ってください。
- 過剰に締め付けると割れや変形が発生する可能性があります。

仕様

寸法図



型番	ダクト 差込シロ (mm)	適合 ダクト サイズ	適合U金具 (鋼管用) Uボルトまたは Uバンド(幅25mm以下)	A	B	C	D	E
PDBK-90	48	90	65A/80A	112	133	122	103	10.2
PDBK-120	48	120	80A/100A	140	159	122	129	10.2

施工手順

(裏面へ続く)

1. U金具の設置

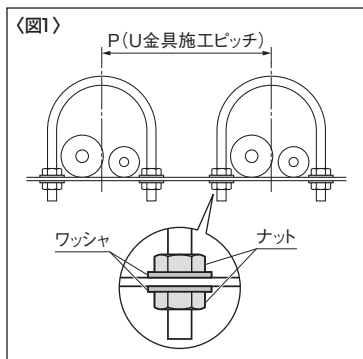
配管をU金具でブラケット架台に振れ止め支持してください。〈図1〉

- ① U金具は、ナットを一番上まで上げて取り付けてください。ナットを上まで上げずに途中の状態では取り付けると、固定ジョイントに収まりません。
- ② U金具は必ずナット、ワッシャを取り付けて施工してください。ワッシャがないと、固定ジョイントの支持強度が低下します。
- ③ 横並び配管のU金具施工ピッチを守って施工してください。施工ピッチ以下で施工された場合は、固定ジョイントの取り付けができません。

※ワッシャは、M10サイズ(外径φ22)またはW3/8サイズ(外径φ25)を使用してください。

■U金具施工ピッチ

型番	P
PDBK-90	175mm以上
PDBK-120	213mm以上



2.ダクトの取り付け

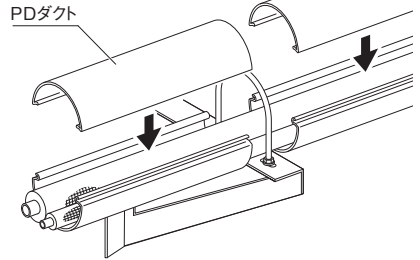
配管支持ピッチ、U金具品種に合わせてダクトを切断し、取り付けください。〈図2〉
(必要に応じて金鋸などでダクトを切断してください。)

■ダクト切断長さ

支持ピッチ	ダクト長さL	
	Uボルト	Uバンド幅25mm
1000mm	975~985mm	965~975mm
1500mm	1475~1485mm	1465~1475mm

④ ダクトが短いと固定ジョイントの差込シロが少なくなり、ダクト抜けの原因となります。

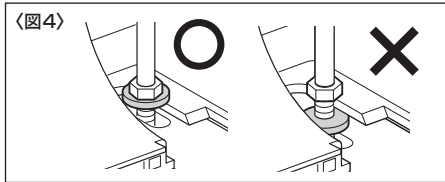
〈図2〉



3.固定ジョイントの取り付け

① 配管およびダクトを浮かせ、U金具のナットをゆるめて、ワッシャ下側に固定ジョイント底面を挿入し、ツメをカン合させて固定ジョイントを取り付けてください。〈図3〉

② ワッシャの上側に固定ジョイント底面が入ると、固定ジョイントが架台から浮いたり、固定ジョイントの支持強度が低下します。〈図4〉



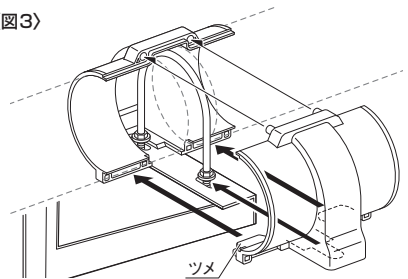
③ U金具の内側にダクトを入れないでください。U金具内側にダクトが入ると固定ジョイントの取り付けができなくなります。

④ 固定ジョイント底面のツメをカン合させた状態を確認し、U金具のナットを締め付けてください。〈図5〉

⑤ ツメが外れた状態でナットを締め付けると固定ジョイントによるダクトの支持強度が得られなくなります。

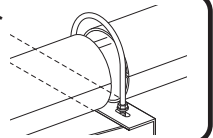
⑥ 付属ビス(M3.5×20)を締め込み(2箇所)、しっかりとダクトを固定してください。〈図6〉

〈図3〉

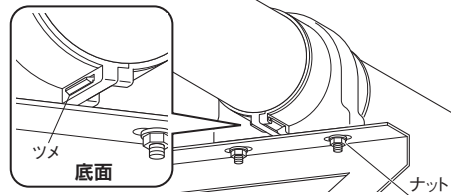


●横引き施工のポイント

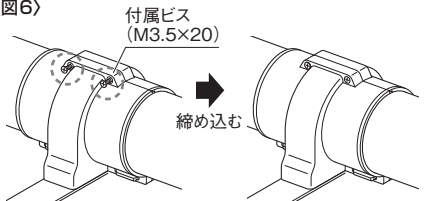
ダクト端部を架台に乗せると施工しやすくなります。



〈図5〉



〈図6〉



4.コーキング処理

壁面貫通箇所近傍では、屋内への雨水侵入防止のため、コーキング処理やパテ埋めなどを施し、防水処理を行ってください。その他の箇所については、必要に応じて防水処理を行ってください。

